

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔国語〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [国 語] 種目 [国 語]

1 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館、美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、各区に図書館があることや、多くの小・中学校で朝読書の取組を実施するとともに、2中学校区に1人学校司書を配置し、学校図書館の環境整備を実施していることなど、読書活動の推進に力を入れている地域でもある。

○ 令和5年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、どの領域も概ね基礎的・基本的な学力は定着しているが、文脈に即して漢字を正しく書くことや読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題が見られる。また、多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着にも依然として課題が見られる。

さらに国立教育政策研究所の令和5年度の調査報告書では、全国的な課題として情報と情報の関係について理解することや、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすることが挙げられているが、これは本市においても同様であり、広島市中学校教育研究会国語・書写部会が中心となって課題の改善に取り組んでいる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫 ② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫 ③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫 ⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 2か所の「読書案内 世界を広げる本」の中に、「私のおすすめ」として、著名人が文章と写真で本を1冊紹介している。
- 各学年の目次において、文字の色を変えて示すことで「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、古典の導入として、「移り行く浦島太郎の物語」という昔話を基に古文を学ぶ意味について考えさせる文章を掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で平安時代の言葉と江戸時代の言葉、方言に残る言葉の変化を例に挙げて説明している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。
- 読む教材に「広がる言葉」を示し、語彙を広げるための問題を取り上げている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 各教材の「てびき」の中に「言葉の力」を示し、学習のポイントが確認できるよう工夫している。また、巻末には「言葉の力」を一覧にまとめ、二次元コードを付してインターネット上で確認できるよう工夫している。
- 資料編の「思考のヒント」において、情報を集めたり、整理したり、分析したりするときに活用する図や表を示している。

「発想を広げる」、「分類する」、「比較する」、「順序づける」、「関連づける」、「分類する・比較する」

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「てびき」に示した学習の流れの中で考えを持つ場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」「現在の『客』は、この話で語られている『思い出』をどのように受け止めているだろうか。考えたことを話し合おう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、第1学年は詩、第2学年は短歌、第3学年は俳句を掲載するとともに、それぞれの背景には、作品と関係した写真を掲載し、興味・関心を持たせている。
- 教材名のそばに、学習を見通すための問いが書かれており、教材の後の「てびき」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、教材を読む視点である「言葉の力」、発展的な学習として「広がる言葉」が掲載されている。また、「振り返り」では、教材を通して学んだことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「言葉を楽しむ（詩）」、「思いを捉える（物語）」など各学年8つのテーマにまとめている。また、教科書全体のテーマとして「未来への扉」を示し、未来を考えるための9つのテーマについて各学年で重点的に関連する教材を扱っている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科との関連がある教材には、鎖のマークを付し、関連する教科名を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「古典」「未来への扉」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 「私の読書体験」として、作家が書き下ろした読書体験に関わる文章を1冊の本の紹介とともに掲載している。また、その作家が書いた本を3冊紹介している。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、古典の導入として、各月の異名に関する文章を掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で「今昔物語集」、「吾輩は猫である」、「一瞬の風になれ」で使用される「微妙」を例に挙げて言葉の変化を挙げて説明している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の類義語や対義語を脚注に示している。

【例】第2学年：「走れメロス」 文章中の掲載語句：悪徳 対義語：美德

文章中の掲載語句：嘲笑 類義語：あざけり

- 複数の教材に「語彙を豊かに」を示し、理解できる語句と使える語句を増やすための教材に関連した語彙を取り上げている。また、資料編「語彙の広がり」でテーマに分けて語彙の広がりを示し、語句どうしの関係やつながり方について理解が深められるよう工夫している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 「読むこと」の教材には思考力・判断力・表現力を伸ばすための方法として「読み方を学ぼう」を示している。また、巻末の折込には「読み方を学ぼう」を一覧にまとめている。さらに「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材には「学び方」を身につけることができるよう学習のポイントを示している。
- 巻頭の「思考の方法」において、全学年同じ内容の9種類の「思考の方法」を手助けするチャートとその使い方を示している。
「順序立てる」、「比較する」、「分類する」、「関連づける」、「多角的に見る」、「理由づける」、「具体化する」、「抽象化する」、「仮定する」

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「学びの道しるべ」に示した学習の流れの中で自分の考えを深める場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」 「現在の場面は、この作品においてどのような役割を果たしているだろうか。考えたことを話し合おう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、単元や季節と関係したイラストを掲載し、興味・関心を持たせている。
- 教材名のそばに目標、教材の後の「学びの道しるべ」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、「学びを振り返る」を設け、学習の過程を示している。また、「学びを振り返る」では、「振り返りのキーワード」を示してヒントを与えた上で、自分の言葉で学習を振り返ることができるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「わかりやすく伝える（説明的文章）」「古典に学ぶ（解説・古文・漢文）」など第1、2学年9つ、第3学年は8つのテーマにまとめている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」教材の後の「生かそう」に国語における他の学習や日常生活との関連を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 各学年の目次において、共通の記号を付すことで、「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、古典の導入として、「昔話と古典一箱に入った桃太郎」という昔話を基に、古典を学ぶ意味について考えさせる文章を掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で和語・漢語・外来語と関連づけながら、現代では使われない「野分」という言葉を例に挙げて説明している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。
- 複数の教材の「みちしるべ」の「言葉・情報」において語彙を豊かにするための問いを立てたり、表現の際の話型を示したりしている。また、「言葉の自習室」で「理解に役立つ言葉」や「表現に役立つ言葉」を紹介している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 「読むこと」の教材には、「学びナビ」を生かして、教材を読んだり活動したりするための「ヒント」を示している。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材には活動のポイントの解説を示している。
- 「言葉の自習室」において、考え方の工夫を自分の表現に生かすことができるよう「学びナビ」の一覧を示している。

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「みちしるべ」に示した学習の流れの中で自分の考えを伝えあう場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」「僕」（＝少年時代の『客』）の視点から語られた回想を『私』や『エーミール』の視点から『客』に語り直したら、『客』はどのようなことに気づくだろう。友達の発言と自分の考えを結びつけながら話し合おう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、学校と関係したイラストを掲載するとともに、「四季のたより」を設け、季節に関連した短歌や俳句を掲載し、興味・関心を持たせている。
- 各教材のはじめに、「学びナビ」を設け、学習の手がかりとなる見方や考え方を示している。教材のそばに目標、教材の後の「みちしるべ」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」は目標と対になっており、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「学びをひろく」、「論理を知る」など第1、2学年9つ、第3学年は8つのテーマにまとめている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の教材の前の「学びを生かす」に他教科や日常的な表現活動への活用例を示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「学びナビ」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「読書」「古典」「情報・メディアと表現」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 2か所の「読書案内 本の世界を広げよう」の中に、「私の一冊」として、著名人が文章と写真で本を1冊紹介している。
- 各学年の目次において、共通の色のついた記号を付すことで、「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫

- 第1学年では、「古典の世界」として、中学校3年間の古典教材を年表、イラスト、作品の解説とともに掲載している。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で、意味の変化、よび名の変化、表すものや意味の広がりについて例に挙げて説明し、和語・漢語・外来語との関連を示している。

視点③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の関連語句を複数脚注に示している。

【例】第2学年：「走れメロス」文章中の掲載語句：夢見心地 関連語句：夢心地、夢うつつ、夢物語

- 複数の教材の「学びのカギ」に、言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やすための「言の葉ポケット」を示している。また、学びを深める教材として本編の最後に語彙ブックを付録し、教材において語彙ブックとの関連を示すことで語彙の広がりにつなげられるよう工夫している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫

- 多くの教材に「学びのカギ」を示し、学習のポイントや前後の学習とのつながりを確かめられるようにしている。また、資料編には「学びのカギ」を一覧にまとめ、二次元コードを付してインターネット上で確認できるようにし、思考・判断・表現する場面で役立てられるよう工夫している。
- 各学年巻頭の「思考の地図」において、学習内容に合わせた場面や目的に応じたさまざまな思考法（考え方）を示している。
「広げる」、「思い出す・ふり返る」、「比較する・分類する」、「順序だてる・関係づける」、「分析する・吟味する」、「仮説を立てて検証する」

視点⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫

- 「学びへの扉」に示した学習の流れの中で考えを持つ場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。

【発問の具体例】

第1学年：「少年の日の思い出」 「この作品では、エーミールや『母』の気持ちは、ほとんど語られていない。読み深めたことを基に、『僕』以外の人物を語り手として作品の一場面を書き換え、気づいたことを発表し合おう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各単元の扉に、単元や季節と関係した写真を掲載するとともに、ページの下に、第1学年では、「動きを表す言葉」、第2学年では「色の名前」、第3学年では「時を表す言葉」として、写真と関連する言葉を掲載している。また、「季節のしおり」を設け、季節に関連した詩歌や言葉を掲載し、興味・関心を持たせている。
- 教材名のそばに目標、目標に沿った学習活動、教材後の「学びへの扉」に「見通しをもつ」、「捉える」、「読み深める」、「考えをもつ」、「振り返る」を設け、学習の流れを示し、見通しを持たせている。また、「学びへの扉」の隣のページに「学びのカギ」を設け、学習のポイントを確認したり、前後の学習とのつながりを意識した学習にしたりできるよう工夫されている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 各単元を「言葉に出会うために（詩）」、「学びをひらく（物語）」など各学年8つのテーマにまとめている。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の教材の「学習の流れ」の中の「生かす」に日常や将来の活動例を示している。また、巻頭の「学習の見通しをもとう」のページに他教科との関連がある教材やSDGsと関連がある教材を一覧で示している。

視点⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「読書」「情報」のイラストデザインを統一し、教材に付している。

4 意見

広島市教科書採択審議会では、本市生徒の課題である「文脈に即して漢字を正しく書くこと」「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えること」「多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着」また、全国的な課題でもある「情報と情報の関係について理解すること」「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の関連語句を複数脚注に示している。

【例】第2学年 「走れメロス」 文章中の掲載語句：夢見心地

関連語句：夢心地、夢うつつ、夢物語

- 複数の教材の「学びのカギ」に言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やすための「言の葉ポケット」を示している。また、自分の思いや考えを多様な表現に言い換えるための教材として本編の最後に語彙ブックを付録している。さらに、いくつかの教材では語彙ブックとの関連を示しており、学習した内容や語彙について広げたり深めたりすることができるよう工夫している。
- 各学年巻頭の「思考の地図」において、学習内容に合わせた場面や目的に応じたさまざまな思考法（考え方）を示している。
「広げる」、「思い出す・ふり返る」、「比較する・分類する」、「順序だてる・関係づける」、「分析する・吟味する」、「仮説を立てて検証する」

意見2 三省堂の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の類義語や対義語を脚注に示している。

【例】第2学年 「走れメロス」 文章中の掲載語句：悪徳 対義語：美德

文章中の掲載語句：嘲笑 類義語：あざけり

- 複数の教材に「語彙を豊かに」を示し、理解できる語句と使える語句を増やすための教材に関連した語彙を取り上げている。また、資料編「語彙の広がり」で語句どうしの関係やつながり方について扱っている。
- 巻頭の「思考の方法」において、全学年同じ内容の9種類の「思考の方法」を手助けするチャートとその使い方を示している。
「順序立てる」、「比較する」、「分類する」、「関連づける」、「多角的に見る」、「理由づける」、「具体化する」、「抽象化する」、「仮定する」

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔書写〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [国 語] 種目 [書 写]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館、美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、筆の生産量が全国一である安芸郡熊野町と隣接しており、書写や書道を身近に感じることができる地域でもある。
- 本市の生徒の実態として、授業において硬筆や毛筆を用いて、字体や筆順に注意して丁寧に書こうとする意識や態度は見られるが、近年のICT技術の革新と普及や、文字表現の多様化といった社会的な状況を背景として、日常生活において文字を書く機会が減り続ける中で、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を自らの生活に生かすことができている生徒が多いことに課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方 ② 伝統と言語文化等に関する内容の記述
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑧ 文字の大きさ・配色

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方

- 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「文字を整えて書くための姿勢（毛筆・硬筆）」、「用具の名前・置き方」、「墨のすり方」、「書きやすい鉛筆の持ち方」、「書きやすい筆の持ち方」、「後片付け」を写真とイラストで示している。
- 運筆については、「基本の点画の書き方」に漢字に加えてひらがなの点画の運筆についても示している。また、運筆について擬態語とイラストで説明し、穂先の向きである45度を、折り紙約半分と表現している。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、「いろは歌」、「竹取物語」、「枕草子」、「おくのほそ道」を扱っている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 3年生のはじめの教材として「身の回りの文字の目的と工夫」を設け、日常生活の中で使用される手書き文字について示し、その効果について考えられるよう工夫している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭「書写の学習の進め方」で「目標」、「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」、「振り返ろう」といった学習の流れを示すとともに、書写で学んだことをふだんの生活や他教科の学習に生かすことを促している。また、二次元コードでデジタルコンテンツの一覧を示し、効果的な活用を促している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 毛筆教材を、3年間で24教材提示している。各学年の内訳は、第1学年10教材、第2学年9教材、第3学年5教材である。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 日常生活との関連の示し方については、「生活に広げよう」や「書写活用ブック」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの右ページに「書写のかぎ」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 単元のまとまりでテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの背景の色を統一している。（単元の1、2：橙、単元の3：緑、単元の4、5：青）

1 知識及び技能の習得

視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方

- 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「姿勢と構え方（毛筆）・硬筆」、「大筆の持ち方」、「小筆の持ち方・構え方」、「筆の運び方」、「用具の扱い方（用具の準備、墨のすり方、用具の片づけ方）」、「鉛筆の持ち方」を写真とイラストで示している。また、鉛筆の悪い持ち方のよくある例を写真付きで示している。
- 運筆については、「点画の種類と筆使い」に示している。運筆を筆圧と穂先の観点に分けて文章で説明している。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、「いろは歌」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」を扱っている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 3年生のはじめの教材として「身のまわりの文字」を設け、手書き文字や活字による伝え方の変遷を示すとともに文字に関わる仕事について紹介し、これからの文字文化について考えられるよう工夫している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭「この教科書の使い方」で「教材の構成」と「学習の流れ」を示し、学習の見通しをもたせるよう工夫している。
- 生徒になじみのある J-pop の歌詞を使用して手書きの文字を示し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 毛筆教材を、3年間で25教材提示している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年3教材、補充教材6教材である。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 日常生活との関連の示し方については、「日常の書式」として、見開き3ページにわたって扱っている。
- 文字を扱う仕事の紹介があり、キャリア学習とも関連のある資料となっている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの右ページに「書き方を学ぼう」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの背景の色を統一している。
(第1学年：橙、第2学年：赤、第3学年：緑)

1 知識及び技能の習得

視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方

- 姿勢・執筆法・用具の扱いについては、「基本の姿勢」、「用具の置き方」、「毛筆の持ち方」、「硬筆の持ち方」、「墨のすり方」、「後片づけ」を写真で示している。また、硬筆についてはボールペンの持ち方の説明もある。また、左手で書く人用の用具の配置について、写真も載せて説明している。
- 運筆については、「基本点画の種類」に示している。筆圧の強さを数字で表し、その時の筆のしなり具合を写真で示している。また、基本点画の名称を考えさせる問題が掲載されている。さらに、行書の運筆については、手を用いた説明がなされている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、「竹取物語」、「いろは歌」、「論語」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」、俳句を扱っている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 3年生のまとめにつながる教材として「多様な表現による文字」を設け、身のまわりで見かける文字について示し、文字の表現効果について考えられるよう工夫している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 巻頭「学習の進め方」で「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」といった学習の流れを示して見通しをもたせるとともに、学習や日常生活に書写を生かすよう意識させる工夫がある。また、話し合い活動をととした学び方を示し、対話的な学習となるよう工夫している。
- 「あの人が残した文字」では日本の歴史上の人物の直筆の書を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 毛筆教材を、3年間で32教材提示している。各学年の内訳は、第1学年11教材、第2学年8教材、第3学年3教材、補充教材10教材である。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 日常生活との関連の示し方については、「学習活動や日常生活に生かして書こう」という単元を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの左ページに「考えよう」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの番号の背景の色を統一している。
(第1学年：緑、第2学年：赤、第3学年：青)

1 知識及び技能の習得

視点① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方

- 姿勢・執筆法・用具の扱いについては、「書くときの姿勢」、「筆記具の持ち方」、「用具の準備」、「用具の片付け」を写真で示している。また、姿勢については「タブレットを使う姿勢」についても示されている。さらに、左手で書く人用の用具の配置について、写真と二次元コードを載せて説明している。
- 運筆については、筆圧の強さを数字で表し、擬態語を用いて説明している。また、基本点画の名称を考えさせる問題が掲載されている。

視点② 伝統と言語文化等に関する内容の記述

- 古典作品は、書写ブックに「竹取物語」、和歌、「平家物語」、「おくのほそ道」を扱っている。この「平家物語」は、扇の形の書式に記入するようになっている。また、楷書の「いろは歌」、行書の「いろは歌」、俳句、「枕草子」を扱っている。この「枕草子」は、冒頭の段をすべてなぞり書きできるようになっている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 3年生のはじめの教材として漫画「手書きのよさってなんだろう」を通して手書き文字のよさについて話合わせた上で、「全国文字マップ」を設け、身の回りにある様々な文字について示し、文字から受ける印象や気づいたことについて話し合えるよう工夫している。
- 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようにしている。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 34ページ「学習の進め方」で「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の学習の展開を示し、見通しをもたせるよう工夫している。また、「教科書通りに書くことができればいいの?」という問いから学びの深め方について示している。さらに「タブレットを活用しよう」で具体的なタブレットの活用例を示し、効果的な活用を促している。
- 「自分らしい文字」では、生徒もよく知る著名人の手書き文字を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量

- 毛筆教材を、3年間で28教材提示している。各学年の内訳は、第1学年12教材、第2学年9教材、第3学年7教材である。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 日常生活との関連の示し方については、「日常に役立つ書式」という単元を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。
- 「全国フォント見つけ隊」では、フォントデザイナーの紹介があり、キャリア学習とも関連のある資料となっている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 毛筆教材では、見開きの右ページに「学びのカギ」を設け、点画等で気を付けることを示している。

視点⑧ 文字の大きさ・配色

- 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの文字の色を統一している。
(第1学年：青、第2学年：緑、第3学年：水色)

4 意見

広島市教科書採択審議会では、本市生徒の課題である「場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を自らの生活に生かすことができていない」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 3年生のはじめの教材として漫画「手書きのよさってなんだろう」を通して手書き文字のよさについて話合わせた上で、「全国文字マップ」を設け、身の回りにある様々な文字について示し、文字から受ける印象や気づいたことについて話し合えるよう工夫している。
- ・ 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりする機会を多く設けることで、書写で学んだことを日常生活に生かすことができるよう工夫している。
- ・ 34ページ「学習の進め方」で「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の学習の展開を示し、見通しをもたせるよう工夫している。また、「教科書通りに書くことができればいいの?」という問いから学びの深め方について示している。さらに「タブレットを活用しよう」で具体的なタブレットの活用例を示し、効果的な活用を促している。
- ・ 「自分らしい文字」では、生徒もよく知る著名人の手書き文字を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

意見2 三省堂の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 3年生のはじめの教材として「身のまわりの文字」を設け、手書き文字や活字による伝え方の変遷を示すとともに文字に関わる仕事について紹介し、「文字」の魅力について考えられるよう工夫している。
- ・ 巻頭「この教科書の使い方」で「教材の構成」と「学習の流れ」を示し、学習の見通しをもたせるよう工夫している。
- ・ 生徒になじみのあるJ-popの歌詞を手書きの文字として掲載し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔 社 会 〕 種目〔 地理的分野 〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社 会] 種目 [地理的分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。また、近年では交通網の整備などによる都市再開発や豪雨などの自然災害等により、他地域との結びつきなどの地域的特色や地域の環境条件が変容していることから、こうした地域の実態や課題を調べる学習に適した地域である。
- 本市の生徒は、地理的事象や調査などに関する作業的な学習活動に対して意欲的に取り組み、タブレット端末を活用したり、地図等諸資料から情報を収集したりする技能は身に付いているが、身近ではない国や地域については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決への見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「まとめの活動」で、地域の範囲に色が塗られている白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、ワードチェックを設け、用語について自分の言葉で説明する活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「えんぴつマーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。
- 特設ページにおいて、身に付けた技能を活用する活動を設定している。
 - ・ 特設ページ「資料から発見！」
 - ・ 活動例「資料を比較して考える」、「資料を結び付けて考える」

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「導入の活動」、「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、「スキル・アップ」、特設ページ「資料から発見！」、コーナー「みんなでチャレンジ」
- 「まとめの活動」での「対話的な学び」の示し方

【例】中国・四国地方

- ・ 「グループ活動」と「個人活動」を行うコーナー「みんなでチャレンジ」を掲載。
- ・ 活動例「となりの人と、左ページの『探究のステップ』で取り上げた資料や文章を発表しましょう。」「(2)で完成した図を基に、交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業がどのような影響を受けるものなのか、その共通点について話し合しましょう。」「時間があれば、交通・通信の発達が地域にもたらす課題について、話し合ってみましょう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載

【例】「観光客も多く訪れるシンガポール」、「高さ200m以上の高層ビルの数」等

- ・ 「アジア州で学んでいくこと」 ・ アジア州の主な国の国旗とあいさつ
- ・ 「聞かせて！中学生」

- 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。

【例】アフリカ州

「砂漠や熱帯雨林だけじゃない」、「豊かな資源や農産物、でも…」、「変わりつつあるアフリカ」

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするための大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。また、コーナー「スキル・アップ」を設け、分布図の読み取り方を学習する活動を設定している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 294ページ

「世界と日本の地域構成」 26ページ 「世界のさまざまな地域」 110ページ

「日本のさまざまな地域」 136ページ

用語解説 4ページ さくいん 4ページ 巻末資料 3ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムや特設ページの示し方 「もっと知りたい」、「未来にアクセス」、「資料から発見！」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 中項目「地域の在り方」に、広島に関連する資料として、「平和記念公園」、「広島駅にある観光案内所」「上空から見た広島市」、「広島市と京都市を訪れる外国人観光客数」、「広島市のホームページに掲載されている将来計画の例」、「平和記念公園から宮島に行く観光船の乗り場を観察した様子」、「広島と京都市の観光団体が連携したことを伝える新聞記事」を掲載している。
- ウェブコンテンツにアクセスできるように、各学習課題やタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。また、二次元コード付近には「Dマーク」「D-MOVEマーク」等を付している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「教科関連マーク」を付し、他教科との関連を示している。また、「分野関連マーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「学習のまとめと表現」で、関連するSDGsを冒頭で示している。
また、白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、ワードチェックを設け、言葉を説明する活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「THINK!」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 第〇編
 - ・ 第〇章
- 「学習のまとめと表現」での「対話的な学び」の示し方
【例】中国・四国地方
 - ・ 「学習したことを活用してまとめよう」
 - ・ 活動例「あなたは、地域おこし協力隊の隊員として、過疎が進んだ中国・四国地方の山間部のまちに移り住みました。地域おこしのためにどのようなことに取り組みたいと思いますか。実際の事例を調べ、自分なりにまとめて、グループで話し合おう。」
 - ・ 「取り組みたいこと」と「調べた実際の事例」を記入する表を掲載。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載
【例】「スラムと高層ビル」、「女性のための学校」等
 - ・ 学習テーマ
 - ・ 節で学習内容についての説明
 - ・ 関連するSDGsマーク
 - ・ アジア州で学習する地球的課題
- 小項目のタイトルの下にサブタイトルを示している。
【例】 アフリカ州
 - 「赤道の南北に広がる大陸」
 - 「アフリカの農業からみえる課題」
 - 「アフリカの資源からみえる課題」

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 310ページ
 - 「世界と日本の地域構成」 20ページ
 - 「世界のさまざまな地域」 103ページ
 - 「日本のさまざまな地域」 157ページ
 - 用語解説 6ページ
 - さくいん 4ページ
 - 巻末資料 3ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムや特設ページの示し方
 - ・ 「地理の窓」
 - ・ 「持続可能な社会に向けて」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、コラム「地理の技」等に二次元コードを掲載している。また、二次元コードには「リンク」、「動画」、「クイズ」マークを付している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「関連コーナーマーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「学習を振り返ろう」で、「節の振り返り1」では、地域の範囲が示された白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、節の重要語句を設け、語句の簡単な説明をする活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「資料活用マーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習を振り返ろう」
 - ・ 各節の問い
- 「学習を振り返ろう」での「対話的な学び」の示し方
 - 【例】中国・四国地方
 - ・ 「節の問いについて、考えを深めよう」に「対話マーク」を付している。
 - ・ 活動例「グループになって選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの『写真で眺める中国・四国地方』をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載
 - 【例】「キムチを漬け込む行事」、「空中散歩を楽しめる植物園」等
 - ・ アジア州の学習を見通そう
 - ・ アジア州の主な国の国旗
 - ・ 「地図帳活用マーク」

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 310ページ
 - 「世界と日本の地域構成」 24ページ
 - 「世界のさまざまな地域」 102ページ
 - 「日本のさまざまな地域」 166ページ
 - さくいん 4ページ
 - 巻末資料 3ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムや特設ページの示し方
 - ・ 「アクティブ地理」
 - ・ 「未来に向けて」
 - ・ 「地理プラス+」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各章・各節のタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「小学校・歴史・公民との関連」マークを付し、社会科の他分野との関連を示している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫

- 中項目「世界の諸地域」の「まとめと振り返り」で、白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、STEP 2 では、自分の言葉でキーワードを説明する活動を設定している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 随所に「資料活用マーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 第〇編
 - ・ 第〇章
 - ・ 本文ページの学習課題
- 「まとめと振り返り」での「対話的な学び」の示し方

【例】中国・四国地方

- ・ 「議論してみよう」に「学び合いマーク」を付している。
- ・ 活動例 「中国・四国地方にみられる地域の課題『過疎化・高齢化した地域の活性化』の取り組みの例として、四国では四国新幹線構想が話題となっています。持続可能な社会の観点から、四国新幹線の整備に賛成か反対か、グループで議論しましょう。」
- ・ 「事実・根拠」、「理由付け・考察」、「主張・結論」の記入例が示された表を掲載

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載

【例】「多くの帰省客でにぎわうシャンハイの駅」、「ヒマラヤ山脈」等

- ・ アジア州の基礎データ

視点⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫

- 世界の主な宗教の分布について、「世界の宗教の分布」を掲載している。また、コーナー「スキルUP」を設け、主題図の読み取り方を学習する活動を設定している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 総ページ数 318 ページ
 - 「世界と日本の地域構成」 24 ページ
 - 「世界のさまざまな地域」 104 ページ
 - 「日本のさまざまな地域」 163 ページ
 - 統計資料 4 ページ
 - 用語解説 4 ページ
 - さくいん 4 ページ
 - 巻末資料 4 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラム・特設ページの示し方
 - ・ 「持続可能な地域を目指して」
 - ・ 「地理+α」

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題の隣や「学習のはじめに」等に二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「タブレットマーク」を付している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 「歴史・公民」の学習との関連マークを付し、学習のつながりを示している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「身近ではない国や地域については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決への見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「えんぴつマーク」を付し、小学校の社会科やコーナー「スキル・アップ」などで身に付けた技能を活用するために「中国・四国地方は、地方内や、ほかの地方とどのような交通網で結び付いているか、説明しましょう」等の活動を随所に設定している。また、特設ページ「資料から発見！」を設けており、資料を読み取る力や、考える力、説明する力を身につけるための活動を設定している。
- ・ 課題を解決する際の視点や方法である地理的な「見方・考え方」を、「導入の活動」や「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、「スキル・アップ」、特設ページ「資料から発見!」、コーナー「みんなでチャレンジ」の随所に示しており、思考・判断したことを説明する際に役立てることができるようにしている。
- ・ 「まとめの活動」において、「グループ活動」と「個人活動」を行うコーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「取り上げた資料や文章を発表し合いましょう。」等の対話的な学びを促すことができるようにしている。
- ・ アジア州を学習する冒頭ページでは、アジア州に関わる様々な写真や資料を掲載するとともに、「聞かせて!中学生」やアジア州の主な国の国旗とあいさつを掲載し、興味・関心を持たせることができるようにしている。また、「アジア州で学んでいくこと」で、アジア州を通して学習する課題を1つずつ示すことで、学習の見通しを持たせることができるようにしている。さらに、本文ページのタイトルの上にサブタイトルを示しており、本文ページで学習する内容を短い言葉で表すことで、これから学習する内容について興味・関心を持たせることができるようにしている。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「THINK!」を付しており、「2015~2020年で、人口が増加傾向にある地域はどこか書き出そう」等の活動を随所に設定しており、身に付けた技能を活用することができるようにしている。
- ・ 課題を解決する際の視点や方法である地理的な「見方・考え方」を、「第〇編」と「第〇章」のページに示しており、思考・判断したことを説明したりする際に役立てることができるようにしている。
- ・ 「学習のまとめと表現」において、「学習したことを活用してまとめよう」で「自分なりにまとめて、グループで話し合おう。」等の対話的な学びを促すことができるようにしている。
- ・ アジア州を学習する冒頭ページでは、アジア州に関わる様々な写真や資料を掲載するとともに、学習テーマや関連するSDGsマーク等を掲載し、興味・関心を持たせることができるようにしている。また、本文ページのタイトルの下にサブタイトルを示しており、本文ページで学習する内容を短い言葉で表すことで、これから学習する内容について興味・関心を持たせることができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔歴史的分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社 会] 種目 [歴史的分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、人類が決して忘れてはならない原爆ドームなど、平和の原点となる場所や、古代から現代にいたる歴史的建造物や遺構などが多数存在し、身近な地域の調査や体験活動を通して、歴史を直接感じることができる地域であり、G7 サミットが開催されるなど世界中の多くの人が訪れる地域である。
- 本市の生徒は、耳慣れた歴史上の人物や出来事に対する興味・関心は高く、タブレット端末を活用したり、文献や地図、統計などの歴史学習に関わる諸資料から情報を収集したりする力は身に付いているが、歴史の大きな流れや特色を理解する力、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特徴を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「時期や年代の表し方」、「歴史の流れのとりえ方」、「時代の特徴のとりえ方」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側へ背景とは異なる色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 「身近な地域の歴史について調べるには、どのような方法があるでしょうか」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて「テーマと問いの設定」、「調査」、「考察」、「まとめと発表」、「ふり回り」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「導入の活動」、「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、特設ページ「資料から発見!」、「地域の歴史を調べよう」、「もっと知りたい」、コーナー「みんなでチャレンジ」
- 各中項目の最後に、「まとめの活動」を設け、くらげチャートやフィッシュボーン図等の思考ツールを用いながら、時代の特徴を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「個人活動」と「グループ活動」を行う、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループ内でそれぞれの考えを発表し、話し合しましょう」、「グループで意見を交換しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】「導入の活動」、「探究課題」、小項目の課題、写真・イラスト等、年表、コーナー「みんなでチャレンジ」
- サブタイトルの掲載例 ・ 位置 小項目のタイトルの上
- 学習の見通しを立てられるよう、「第〇章で探究する問いは？」で、中項目の課題を「探究課題」として示すとともに、「探究のステップ」で各節で追究する課題を示している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「もっと知りたい」において、「現代に生きる神話」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方「国宝」「世界遺産」「重要文化財」「世界の記憶」「無形文化遺産」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 14 ページ 古代 42 ページ 中世 34 ページ 近世 46 ページ
近代 100 ページ 現代 30 ページ その他 30 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「もっと知りたい」を設け、「本文や資料からまとめましょう」、「背景を考えましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、原子爆弾（原爆）を8月6日に広島、9日に長崎に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料「廃きよになった広島」、「長崎に落とされた原子爆弾」
- 特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「被爆建物の保存と継承」をテーマに、「広島市」を取り上げ、被爆建物を継承することの意義を考える活動を設定している。また、「旧広島陸軍被服支廠の見学」、「原爆ドームの調査」、「広島市長 浜井信三（当時）の言葉」、「広島赤十字原爆病院（モニュメント前）での聞き取り」、「クラスでの発表」の写真を掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「民主化と日本国憲法」において、「初の男女普通選挙」、「男女共学」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「年代の表し方と時代の分け方」、「歴史ゲームで遊ぼう」、「歴史にアプローチ～歴史の見方・考え方と学習の進め方」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、学習課題の上に横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題「身近な地域の歴史を調べる学習の方法について学びましょう」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
 「情報を集めて問いを立てよう」、「実際の調査を進めよう」、「整理して考察しよう」、「調査の結果をまとめよう」、「発表して振り返ろう」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習のまとめと表現」
- 各中項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】「学習のはじめに」、「第〇章の問い」、小項目の課題、写真・イラスト等、年表、コーナー「LOOK！」
- サブタイトルの掲載例 ・ 位置 小項目のタイトルの下
- 学習の見通しを立てられるよう、中項目の課題を「第〇章の問い」として示すとともに、「学習の見通し」で各節の課題を示している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史を探ろう」において、「神話にみる古代の人々の信仰」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
 - 「国宝」
 - 「世界遺産」
 - 「重要文化財」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数

歴史との対話	17 ページ	古代	40 ページ	中世	36 ページ
近世	48 ページ	近代	108 ページ	現代	36 ページ
その他	27 ページ				

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を探ろう」を設け、「〇〇について探ってみましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、8月6日には広島に、8月9日には長崎に、新たに開発した原子爆弾（原爆）を投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料
 - 「被爆後の広島街」
 - 「長崎に投下された原子爆弾」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「平和国家を目指して」において、「日本国憲法の前文」、「中学校の学級活動」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「年代の表し方と時代区分」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側に背景が白色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 記載なし
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「テーマを決める」、「資料を調べたり実際に見たりする」、「まとめる」、「発表する」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「タイムトラベル」、「学習を振り返ろう」、特設ページ「アクティブ歴史」、コーナー「やってみよう」
- 各中項目の最後に、「学習を振り返ろう」を設け、ウェビングやXチャート等の思考ツールを用いながら、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「対話マーク」を付して、「周りの人と話し合ってみましょう」、「グループの人に説明しよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方
【掲載例】「タイムトラベル」、「第〇章の問い」、写真・イラスト等、年表
- 学習の見通しを立てられるよう、「〇章の問い」で中項目の課題を示すとともに、「この章で学習する節の問い」で各節の課題を示している。また、「学習する時代の見通しをもとう」を設け、社会の変化を予想する活動を設定している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラム「未来に向けて」において、「自然災害と神話」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
「国宝」
「世界遺産」
「重要文化財」
「世界の記憶」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 12 ページ 古代 48 ページ 中世 42 ページ
近世 56 ページ 近代 114 ページ 現代 32 ページ
その他 26 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を探ろう」を設け、「どのような都市だったのか」、「生活環境はどうなっていたのか」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、戦争の早期終結とともにソ連に対して優位に立つため、原子爆弾（原爆）の投下を決定しました。」
 - ・ 本文ページの資料
「原子爆弾によって廃墟となった広島」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「新時代に求められた憲法」において、「男女共学の学級会の時間」、「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「私たちの歴史」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方

- ・ 学習課題 記載なし

- ・ 学習内容の取り扱いについて

「テーマを設定しよう」、「さあ調査だ!」、「レポートをつくって発表しよう!」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「まとめ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方。

【掲載例】

- ・ 「第〇章」
- ・ 単元課題
- ・ 写真・イラスト等
- ・ 年表

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラムにおいて、「日本の神話」を掲載している。

- 本文中の文化遺産等の示し方

「国宝」

「世界遺産」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数

歴史との対話 9 ページ 古代 48 ページ 中世 40 ページ

近世 52 ページ 近代 100 ページ 現代 30 ページ

その他 15 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、「地図・地名から考えよう」、「名産品から考えよう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方

- ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、戦争を早期に終結させるため、開発したばかりの原子爆弾（原爆）を日本に投下することを決定した。」

- ・ 本文ページの資料

「広島と長崎への原子爆弾の投下」（広島の爆心地・原爆投下後の長崎）

- 特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、「広島」をテーマに取り上げ、原爆の被害や復興等について考える活動を設定している。さらに、「爆心地を中心とした被爆地図」、「相生橋」、「被爆直後の広島県物産陳列館」、「被爆前の広島県物産陳列館」、「オバマ大統領広島訪問の記事」、「厳島神社」、「『平家納経』」、「原水爆禁止世界大会」、「広島平和記念資料館」、「大和ミュージアム」、「海上自衛隊第1術科学校（旧海軍兵学校）」、「この史代『この世界の片隅に』」、「広島東洋カープ」の写真に掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「日本国憲法と民主化」において、「日本国憲法の原本」、「戦後の女性と社会」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「年代・時代区分のあらわし方」、「『歴史的な見方・考え方』とは？」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側に背景が白色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題「私たちが住む地域には、どのような歴史があるのでしょうか」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「テーマの決定」、「課題の調査」、「考察とまとめ」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習のはじめに」、本文ページの課題
- 各中項目の最後に、「まとめとふり返り」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「学び合いマーク」を付して、「読み取って話し合ひましょう」、「意見を出し合ひましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

「学習のはじめに」、「第〇編の問い」、小項目の課題、写真・イラスト等、年表、「学び合いマーク」

- サブタイトルの掲載例 ・ 位置 小項目のタイトルの横
- 学習の見通しを立てられるよう、「第〇編の問い」で中項目の課題を示すとともに、各節の問いを示している。また、「学習の見通しをもとう」を設け、疑問や答えの予想をする活動を設定している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史を掘り下げる」において、「日本の神話」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
「国宝」、「世界遺産」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 12 ページ 古代 46 ページ 中世 40 ページ
近世 50 ページ 近代 104 ページ 現代 34 ページ その他 33 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を掘り下げる」を設け、「その謎を解いていきましょう」、「世の中をさぐっていきましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、戦後の世界でソ連に対して優位に立つことも意図して、1945（昭和20）年8月6日、世界で最初の原子爆弾を広島に投下し、9日には長崎にも投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料「原子爆弾投下2か月後の広島」、「長崎に落とされた原爆のきのこ雲」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「平和で民主的な国家をめざして」において、「共学となった高校に通う生徒たち」、「投票する女性有権者と初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「歴史と物語と史料」、「年代の表し方と時代区分」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、下側へ交互に色を付けた横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題「堺市の歴史を調べよう」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
- 「古墳を調査」、「港を調査」、「千利休の屋敷跡を調査」、「堺事件を調査」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「復習問題のページ」、「時代の特徴を考えるページ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「意見交換会」において、「共通点をみんなで出し合ってみよう」、「それぞれの考え方を調べ、それについて意見を出し合ってみよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

- ・ 「第〇章」
- ・ 写真・イラスト等

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラム「もっと知りたい」において、「国譲り神話と古代人」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
 - 「国宝」
 - 「世界遺産」
 - 「重要文化財」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数

歴史との対話	12 ページ	古代	50 ページ	中世	36 ページ
近世	44 ページ	近代	106 ページ	現代	33 ページ
その他	27 ページ				

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラム「人物クローズアップ」、「外の目から見た日本」を設け、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「8月6日、アメリカは世界最初の原子爆弾（原爆）を広島に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料
 - 「広島原爆投下」
- 「調べ学習のページ」を設け、左ページでは「原子爆弾の被害を考えよう」をテーマに、「広島市」を取り上げている。また、被爆後の原爆ドームの写真を掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「占領下の日本」において、「日本最初の婦人代議士」、「占領軍の進めた戦後の主な改革」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「時代や年代区分の表し方」、「歴史的な見方・考え方を働かせる」、「歴史の流れと先人の活躍」を掲載している。
- 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、下側に背景が白色の横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 記載なし
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「テーマを決める」、「調査をする」、「分類・分析・整理する」、「発表する（まとめ）」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 活動コーナー
 - ・ 特設ページ「歴史ズームイン」
- 各中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 「TRY!」において、「グループで調べてまとめましょう」、「グループで話し合いましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

「鳥の目で見える〇〇」、「虫の目で見える〇〇」、単元課題、小項目の課題、写真・イラスト等、年表

- 学習の見通しを立てられるよう、中項目の課題を示すとともに、各節の課題を示している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史ズームイン」において、「神話に見る日本誕生の物語」を掲載している。
- 本文中の文化遺産等の示し方
「国宝」
「世界遺産」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 14 ページ 古代 50 ページ 中世 36 ページ
近世 44 ページ 近代 106 ページ 現代 33 ページ
その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史ズームイン」を設け、「当時の時代背景をふまえて考えましょう」、「似ている点をそれぞれ挙げましょう」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「アメリカは、戦後の世界でソ連に対して優位に立つ目的などから、1945（昭和20）年8月6日午前8時15分、原爆を広島に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料
「原爆投下直後の原爆ドーム」、「現在の原爆ドームと平和記念公園」、「長崎に投下された原子爆弾」、「原爆のきのこ雲」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「民主化と日本国憲法制定」において、「戦後初の衆議院議員選挙で投票する女性有権者」、「男女共学」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「歴史と出会うー6月23日、沖縄で」、「歴史を楽しく学ぼう」、「年代のあらわし方、時代区切り方」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 記載なし
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「地域の博物館で調べる」、「地域の歴史を歩く」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「第〇章をふりかえる」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 特設ページ「歴史を体験する」において、「疑問に思ったりしたことをメモし、発表しましょう」、「グループやクラスで発表しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方
【掲載例】
 - ・ 「第〇部」、「第〇章」
 - ・ 単元課題
 - ・ 写真・イラスト等
 - ・ 年表
- サブタイトルの掲載例
 - ・ 位置 小項目のタイトルの下
- 学習の見通しを立てられるよう、時代の特色を踏まえて理解するための「〇部」の課題を「〇〇の学習課題」として掲載している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラムにおいて、『常陸国風土記』に書かれた富士山と筑波山」を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数
歴史との対話 8 ページ 古代 50 ページ 中世 36 ページ
近世 44 ページ 近代 106 ページ 現代 33 ページ
その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「歴史を体験する」を設け、「火おこしに挑戦する」、「対話・討論にチャレンジ」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方
 - ・ 本文で説明（一部）「1945年8月6日午前8時15分、米軍の爆撃機が、原子爆弾『リトルボーイ』を広島市に投下しました。」
 - ・ 本文ページの資料
「原爆で壊滅した広島市の爆心地付近（1945年10月）／右は原爆ドーム（産業奨励館）」
「原爆のきのこ雲（長崎 米軍爆撃機から撮影）」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「焼け跡からの出発」、「もう戦争はしない」において、「1945年の銀座（東京都）」、「憲法発布記念式典」等の資料を掲載している。

1 知識及び技能の習得

視点① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫

- 中項目「私たちと歴史」において、「国史を学ぶにあたって」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方
 - ・ 学習課題 「グループで歴史を調べよう」
 - ・ 学習内容の取り扱いについて
「テーマを決める」、「疑問を持つ」、「調べる」、「まとめる」、「発表する」、「振り返る」と展開する構成

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 各中項目の最後に、「まとめ学習」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。
- 特設ページ「歴史について議論しよう」において、「意見ごとにグループで分かれましょう」、「調べたことをもとに議論しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭の示し方

【掲載例】

- ・ 「第〇章」
- ・ イラスト
- ・ 課題
- ・ 年表

- 学習の見通しを立てられるよう、中項目冒頭において、時代の特色を踏まえて理解するための章の学習課題を「政治」、「外交」、「文化」、「産業」のテーマとして掲載している。

視点⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするものの大切さについて自覚するための工夫

- 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「『古事記』の国譲り神話」等を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各時代区分のページ数

歴史との対話 13 ページ 古代 50 ページ 中世 36 ページ
近世 44 ページ 近代 106 ページ 現代 33 ページ
その他 27 ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- コラムを随所に設け、「京都御所にはなぜお堀がないのか」、「トルコと日本の意外なつながり」等、発展的な学習を設定している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 原爆投下についての示し方

- ・ 本文で説明（一部）「八月六日、『リトルボーイ』（おちびちゃん）と命名された一個のウラン型原子爆弾を搭載した爆撃機 B29『エノラ・ゲイ』がマリアナ諸島のテニアン島を離陸、日本時間の午前八時十五分、第一投下目標の広島市の市街地中心部に投下しました。」
- ・ 本文ページの資料 掲載なし

- 特設ページを設け、「オバマ大統領の広島訪問」をテーマに、「広島市」を取り上げ、「原爆死没者慰霊碑前に献花したオバマ大統領と固く握手を交わす安倍首相」、「オバマ大統領から抱擁を受ける森重昭さん」、「オバマ大統領が祈って持参した折り鶴（広島平和記念資料館展示）」の写真に掲載している。

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 現代における人権思想の広がりについて、小項目「大日本帝国憲法の改正」において、「日本国憲法原本 上諭」、「日本国憲法原本 上諭（御名御璽と大臣の副署）」等の資料を掲載している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「歴史の大きな流れや特色を理解する力、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 課題を解決する際の視点や方法である歴史的な「見方・考え方」を、「導入の活動」や「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、特設ページ「資料から発見!」、「地域の歴史を調べよう」、「もっと知りたい」、コーナー「みんなでチャレンジ」の随所に示しており、思考・判断したことを説明したりする際に役立てることができるようにしている。また、4ページにわたる「まとめの活動」の「確かめよう」、「ふり返ろう」において、見開きを使って各節の問いを解決する活動を設けている。さらに、「深めよう」において、時代の変化に着目しながら、時代の特色を考察するために、くらげチャートやフィッシュボーン図等の様々な思考ツールを用いた活動ができるようにしているとともに、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、対話を促す活動を設定している。
- ・ 中項目の冒頭では、「導入の活動」を設けており、資料等から時代の特色を捉えるための探究課題と関連した活動を設定している。また、中項目の課題を「探究課題」として示すとともに、「探究のステップ」で各節の追究する課題を示すとともに、節を通して学習する課題を一つずつ示しており、学習の見通しを立てることができるようにしている。また、本文ページのタイトルの上にサブタイトルを示しており、生徒にとって耳慣れていない歴史的な事象を学習する際の興味・関心を持たせるための工夫が見られる。
- ・ 原爆投下について、本文で説明をしており、関連する資料として「廃きよになった広島」、「長崎に落とされた原子爆弾」を掲載している。また、特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「被爆建物の保存と継承」をテーマに、広島市を取り上げ、被爆建物を継承することの意義を考える活動を設定しており、広島市を題材にして学習することができるようにしている。

意見2 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 課題を解決する際の視点や方法である歴史的な「見方・考え方」を、「タイムトラベル」や「学習を振り返ろう」のページ、特設ページ「アクティブ歴史」、コーナー「やってみよう」の随所に示しており、思考・判断したことを説明したりする際に役立てることができるようにしている。また、3ページにわたる「学習を振り返ろう」において、「節の振り返り」で節の問いを解決する活動を設けている。さらに、「時代の特色を考察しよう」で、時代の特色を考察するために、ウェビングやXチャート等の様々な思考ツールを用いた活動ができるようにしているとともに、「対話マーク」を付し、対話を促す活動を設定している。
- ・ 中項目の冒頭では「章の問い」として、中項目の課題を示すとともに、「この章で学習する節の問い」で各節の課題を示しており、節を通して学習する課題を一つずつ示していることで、学習の見通しを立てることができるようにしている。また、「学習する時代の見通しをもとう」を設け、社会の変化を予想する活動を行うことができるようにしている。
- ・ 原爆投下について、本文で説明をしており、関連する資料として「原子爆弾によって廃墟となった広島」を掲載しており、広島市を題材にして学習することができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔公民的分野〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社 会] 種目 [公民的分野]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国や地方自治体の政治機関、全国規模の企業の支社・支店が集中し、中国地方の中心都市として、政治、経済の中心的機能を果たしている。また、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できる地域である。
- 本市の生徒は、SNSや報道等から得られる現代の社会的事象に対する興味・関心は高く、タブレット端末を活用したり、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を収集したりする力は身に付いているが、政府の役割や民主政治の仕組みなど、生徒があまり身近に感じにくいような社会的事象については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を基に、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力や、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「チェック＆トライ」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「まとめの活動」において、「確かめよう」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 3節「現代社会の見方や考え方」において本文で説明。
 - ・ 部活動の今後の体育館の使い方を例に、1年前、現在のそれぞれの状況における解決策を考える課題を掲載。「まとめの活動」で「T市の新しい公園の使用ルールを考えよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「導入の活動」、「まとめの活動」、「えんぴつマーク」、「スキル・アップ」、特設ページ「もっと知りたい」、コーナー「みんなでチャレンジ」
- 「まとめの活動」を設け、「探究のステップ」で節の問いを解決する活動を設定している。また、「深めよう」では、ウェビングやYチャート等の思考ツールを用いながら、「導入の活動」で示された課題と関連した発展的な課題について考察する活動を設定している。
- 「まとめの活動」において、「個人活動」と「グループ活動」を行う、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループで自分の考えを発表し合いましょう」、「意見を交換しましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、現代社会の見方・考え方を付した「導入の活動」を設け、資料やイラスト等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、「探究のステップ」で小項目の課題を示している。
- 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。

【例】 第3章 1節「現代の民主政治」 「私たちの、私たちによる、私たちのための」、「選挙権は、当たり前ものじゃない」、「それぞれの公約を見てみよう」

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「契約と消費生活」
 - ・ 「日常生活のさまざまな場面と契約」、「食品表示」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「18歳のステップ」で「契約と支払い方法のあれこれ」をテーマに「スマートフォンを利用した支払い」等を掲載。
- 特設ページ「18歳のステップ」を設け、選挙権年齢や成人年齢の引き下げを受けて、18歳に向けて準備するために、「選挙の流れ」、「18歳でできること、20歳でできること」等を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」31ページ、「私たちと経済」52ページ、「私たちと政治」92ページ、「私たちと国際社会の諸課題」43ページ、その他 28ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「もっと知りたい!」において、本文ページの学習内容を深めるために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料 「堆積した泥の除去作業をする中学生」、「広島市の平和記念式典」、「広島の平和記念公園を訪問した、アメリカのオバマ大統領」、「再生する空き家」、「福山市神辺町の取り組み」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方【例 情報化】 小項目「情報化」 「すし店のメニューを注文するためのタブレット端末」、「メタバース上の月面に展開する仮想店舗」等を掲載。特設ページ「もっと知りたい」で「AIの機能があるスピーカー」「無人宅配機」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「確認・表現」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習のまとめと表現」において、「HOP!」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 3節「私たちがつくるこれからの社会」において本文で説明。
 - ・ 合唱コンクールの練習場所のトラブル、ごみ収集所の新たな設置を例に、解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 「TRY!」で「避難所における課題を考えてみよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「第〇章の学習のはじめに」、「学習のまとめと表現」、本文ページの「表現」、コーナー「THINK!」
- 「学習のまとめと表現」を設け、フィッシュボーン図やクラゲチャート等の思考ツールを用いながら、章の問いについて、考察する活動を掲載している。また、「JUMP!」では、発展的な課題についてSDGsと関連させて考察する活動を設定している。
- 各中項目最後の「学習のまとめと表現」において、「STEP!2」で、「友だちと意見を交換してみよう」、「グループで提言としてまとめよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、「学習のはじめに」を設け、単元課題を資料やイラスト等と示している。また、学習の見通しを立てられるよう、「学習の見通し」で小項目の課題を示している。
- 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。

【例】 第3章 1節「民主政治と日本の政治」

「民主主義と多数決」、「選挙の意義と選挙制度」、「これからの選挙を考える」

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者を守るもの、支えるもの」
 - ・ 「暮らしの中のさまざまな『契約』の場面」、「クーリング・オフの記入例」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「持続可能な社会に向けて」で「なぜ、契約について学ぶ必要があるのだろうか」をテーマに「クレジットカードによる決済」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」26ページ
 - 「私たちと経済」64ページ
 - 「私たちと政治」90ページ
 - 「私たちと国際社会の諸課題」44ページ、その他 46ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「持続可能な社会に向けて」において、資料を読み深め、表現活動に取り組むための発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料
 - 「鞆の浦の港」、「予定されていた埋め立てと架橋計画」、「スピーチを行うオバマ大統領」、「原子爆弾が投下された後の広島市内」、「被爆して黒く焦げた三輪車」、「ヒロシマの願いを未来に」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方【例 情報化】
 - ・ 小項目「急速に進展する情報社会」
 - ・ 「自動搬送ロボット」、「最寄りの開設避難所への避難ルートの検索などができるシステム」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「確認しよう・説明しよう」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習を振り返ろう」において、「図で知識を整理する」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第3節「現代社会をとらえる枠組み」において本文で説明。
 - ・ 防災備蓄倉庫の新設を例に、状況を確認し、設置場所と運用規則の解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 特設ページ「アクティブ公民」で「マンションの騒音問題を解決しよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「学習を振り返ろう」
 - ・ コラム「アクティブ公民」
 - ・ 資料
- 「学習を振り返ろう」を設け、章の冒頭で示したイラストを基に、Yチャートやクラゲチャート等の思考ツールや図を活用し、知識を整理したり、問いを考える活動を設定している。また、「探究学習への準備」として、章の学習を振り返りながら、探究テーマを考える活動を設定している。
- 各中項目最後の「学習を振り返ろう」において、「対話マーク」を付し、「作成した表を周りの人と持ち寄って、意見交換をしてみよう」、「整理したことを周りの人と持ち寄って、探究したいテーマを表にまとめよう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、「学習の前に」を設け、単元課題を資料やイラスト等と示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「契約と消費者問題」
 - ・ 「異なるアイスクリーム類の表示とその規準」、「商品につけられる主な認証ラベル」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「18歳への準備」で「契約について考えよう」をテーマに「宅配ピザの契約における契約自由の原則」等を掲載。
- 特設ページ「18歳への準備」を設け、メディアリテラシー、契約、ライフプランや金利など、18歳に向けて習得しておきたい実践的な知識を学ぶために、「メディアリテラシーを身につけよう」、「契約について考えよう」等を掲載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」28ページ、「私たちと経済」66ページ、「私たちと政治」86ページ、「私たちと国際社会の諸課題」43ページ、その他 39ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「アクティブ公民」において、学習した内容を深めるために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料 「原爆投下直後の原爆ドーム」、「広島平和記念式典」、「核兵器廃絶とウクライナの平和を願いともされたキャンドル」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方

【例 情報化】

- ・ 小項目「情報化が進む現代」
- ・ 「メタバース上の店舗で商品売り買いできるバーチャルマーケット」、「インターネット利用に伴う被害の経験」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「確認・表現」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「まとめとふり返し」において、「語句の意味を確認しよう」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第2章「現代社会の見方・考え方」において本文で説明。
 - ・ 合唱コンクールのスケジュールを例に、解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 特設ページ「チャレンジ公民」で「公園づくりについて話し合おう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ 「第〇編第〇章」
 - ・ 本文ページの課題
- 「まとめとふり返し」を設け、マトリックスやクラゲチャート等の思考ツールを用いながら、STEP1、STEP2、STEP3と段階的に章の問いについて考察する活動を設定している。
- 各中項目最後の「まとめとふり返し」において、「学び合いマーク」を付し、「自分の考えがまとまったら、グループになって意見交換をしてみましょう」の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、「学習のはじめに」を設け、資料やイラスト等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、小項目の課題を示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者の権利と自立を支える政府のはたらき」
 - ・ 「あなたも契約をしている」、「消費者ホットラインの広報資料」等を掲載。
 - ・ 特設ページ「明日に向かって」で「契約について考えよう」をテーマに「例外的に取り消しなどが可能な契約」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」32ページ
 - 「私たちと経済」60ページ
 - 「私たちと政治」90ページ
 - 「私たちと国際社会の諸課題」43ページ
 - その他 49ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「チャレンジ公民」において、社会の課題について考察・構想し深めるために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料
 - 「田植え祭り」
 - 「広島平和記念式典」
 - 「被爆直後の原爆ドーム」
 - 「福山市ばらのまち条例」
 - 「平和首長会議」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方
 - 【例 情報化】
 - ・ 小項目「情報化で変わる社会と私たち」
 - ・ 「eスポーツの高校選手権」、「防災情報を伝えるタブレットの貸し出し」等を掲載。

1 知識及び技能の習得

視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫

- 各小項目において、「ここがポイント」を設けている。また、各大項目の「学習のまとめと発展」において、「最重要語句」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第3節「社会の中の決まり」において本文で説明。
 - ・ 部活動の体育館の使い方を例に、解決策を考える課題を掲載。
 - ・ 特設ページ「アクティブに深めよう」で「魅力あるまちづくりを考えよう」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫

- 「学習のまとめと発展」を設け、「学習のまとめ」で最重要語句の確認を行い、「学習の発展」で、課題を選択し、内容をまとめる活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 中項目の冒頭に、タイトルページを設け、イラストとともに単元課題を示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者の保護」「消費生活に関する出来事」、「その他の品質保証マークの例」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」42ページ
 - 「私たちと経済」44ページ
 - 「私たちと政治」78ページ
 - 「私たちと国際社会の諸課題」60ページ
 - その他 46ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「もっと知りたい」において、重要な事項をより深く理解するために発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する資料
 - 「広島市の原爆被害」
 - 「2016年アメリカのオバマ大統領、被爆地広島へ（年表）」
 - 「熊野筆」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方

【例 情報化】

- ・ 小項目「情報社会」
- ・ 「統合災害情報システム DiMAPS（ディーマップス）」、「クラウドの仕組み」等を掲載。

1 知識及び技能の習得**視点① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫**

- 各小項目において、「確認・探究」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習のまとめ」において、「重要語句の確認」を掲載している。

視点② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫

- 対立と合意、効率と公正についての示し方
 - ・ 第3節「現代社会をとらえる見方や考え方」において本文で説明。
 - ・ 部活動の平日のグラウンド割りを例に、解決策を考え課題を掲載。
 - ・ 「現代社会のこれから」で「マンションの住民のペットの飼育に関する状況や考え」を掲載。

2 思考力、判断力、表現力等の育成**視点③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫**

- どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所
 - ・ コラム「学習を深めよう」
 - ・ 資料
 - ・ 写真
- 「〇〇のこれから」を設け、KJ法やランキング等の思考ツールを用いながら、章で学んだことを生かして課題について考察する活動を設定している。また、「学習のまとめ」において、自分の意見を述べる活動を設定している。
- 各中項目最後の「〇〇のこれから」において、「理由も含めてペア（グループ）で発表してみましょう」、「それはなぜなのか、話し合ってみましょう」等の活動を設定している。

3 主体的に学習に取り組む工夫**視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫**

- 中項目の冒頭に、「〇〇の入り口」を設け、写真や資料等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、小項目の課題を示している。

視点⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫

- 契約を通した個人と社会との関係についての示し方
 - ・ 小項目「消費者の権利と保護」
 - ・ 「契約はいつ成立するのか」、「消費生活センターへの相談」等を掲載。

4 内容の構成・配列・分量**視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 各大項目のページ数
 - 「私たちと現代社会」28ページ
 - 「私たちと経済」54ページ
 - 「私たちと政治」80ページ
 - 「私たちと国際社会の諸課題」36ページ
 - その他 64ページ

視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 特設ページ「〇〇のこれから」において、「〇〇の入り口」で示された課題を受けて、その章で学習した内容を生かして取り組むために、発展的な課題を掲載している。

5 内容の表現・表記**視点⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方**

- 広島に関する資料
 - 「高校生の神楽甲子園」、「原爆投下直後の原爆ドーム」、「広島市の平和記念公園で演説するアメリカのオバマ大統領」、「瀬戸内海の景勝地である鞆の浦」、「五穀豊穡や無病息災、先祖の冥福を祈る『棕浦の法楽おどり』」、「戦後の日本と世界の主な出来事（1945年広島・長崎に原爆投下）（2016年現職米大統領が初の広島訪問）」、「瀬戸内海に浮かぶカキイカダ」

視点⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 日常生活等との関連の示し方【例 情報化】
 - ・ 小項目「情報から知る現代と未来」
 - ・ 「AIを活用した対話型のロボットコンシェルジュ」、「人工知能（AI）の防災分野への活用」等を掲載。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「政府の役割や民主政治の仕組みなど、生徒があまり身近に感じにくいような社会的事象については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を基に、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力や、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「まとめの活動」や特設ページ等の随所に、どのような「見方・考え方」を働かせるかを示しており、思考・判断したことを説明する学習を行う際に役立てることができるようにしている。また、「まとめの活動」において、「探究のステップ」で節の問いを解決する活動を設定し、「深めよう」では、ウェビングやYチャート等の活動内容に応じた複数の思考ツールを用いながら、「導入の活動」で示された課題と関連した発展的な課題について考察する活動を設定しており、単元で学んだことを活用できるようにしている。
- ・ 各中項目最後の「まとめの活動」において、語句などの確認を行い、「探究のステップ」として、「節の問いを解決しよう」を設け、段階的に振り返りながら単元の課題を解決することができるようにしていると同時に、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、対話を促す活動を設定している。また、「まとめの活動」以外のページにおいても、随所にコーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループで話し合った内容について発表しましょう」、「もっと良い方法はないか、グループで話し合いましょう」等の活動を行えるようにしている。
- ・ 中項目の冒頭では、現代社会の見方・考え方を付した「導入の活動」を設けており、探究課題と関連した活動を設定しているとともに、その「探究課題」を冒頭に示し、節を通して学習する課題を一つずつ示すことで、学習の見通しを立てることができるようにしている。また、本文ページのタイトルの上にサブタイトルを示しており、生徒にとって身近に感じにくいような社会的事象を学習する際の興味・関心を持たせるための工夫が見られる。

意見2 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「学習を振り返ろう」や特設ページ等の随所に、どのような「見方・考え方」を働かせるかを示しており、思考・判断したことを説明する学習を行う際に役立てることができるようにしている。また、「学習を振り返ろう」を設け、章の冒頭で示したイラストを基に、Yチャートやクラゲチャート等の思考ツールや図を活用し、知識を整理したり、問いを考えたりする活動を設定している。また、「探究学習への準備」として、章の学習を振り返りながら、探究テーマを考える活動を設定しており、発展的な課題に取り組むことができるようにしている。
- ・ 各中項目最後の「学習を振り返ろう」において、語句などの確認を行い、「章の振り返り」として、段階的に振り返りながら単元の課題を解決することができるようにしていると同時に、「対話マーク」を付し、対話を促す活動を設定している。また、「章の振り返り」以外のページにおいても、随所に「対話マーク」を付し、「周りの人と意見交換をしてみよう。特に重視した点は何だろうか」、「考えを出し合ってみよう」等の対話を促す活動を行えるようにしている。
- ・ 中項目の冒頭では「学習の前に」を設け、資料やイラスト等を用いた「章の問い」に関連する活動を設定している。また、「章の問い」を冒頭に示すことで、学習の見通しを立てることができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科　〔　社　会　〕　種目〔　地　図　〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [社 会] 種目 [地 図]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、山や川、豊かな自然環境に恵まれるとともに、古代遺跡等の歴史的資源も豊富であり、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られる地域である。また、太田川のデルタ地形に位置し、自然災害等の発生しやすい地域でもあるため、地理的分野・歴史的分野における地域調査や体験活動を行うのにも適している。
- 本市の生徒は、地図に対する興味・関心が高く、読図や作図などの技能は身に付いているが、種類や縮尺の違いによる多様な利用の仕方や、主題図、その他統計や写真など、たくさんの地理情報を活用し、例えば、気候図を併用して降水量の分布と土地利用の関係を明らかにするなどの事象間の関係を読み取る力や、地図から地域的特色を捉え、地域の課題を見いだし考察する力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 日本や世界の地域的特色を理解するための工夫 ② 地図の活用方法やその手順の示し方
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 問題解決的な学習をするための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑦ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 日本や世界の地域的特色を理解するための工夫

- 段彩図を用いて、陸地の高さや海の深さを表している。また、世界では、鳥観図を用いて、アジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州の地形などを立体的に表している。
- 「日本周辺」では、見開き2ページにわたり、日本の排他的経済水域を示すとともに、日本の東西南北端の各島、竹島及び尖閣諸島の写真・説明を掲載している。

視点② 地図の活用方法やその手順の示し方

- 「この地図帳の地図記号」「この地図帳の活用方法」では、巻頭の3ページにわたり、地図記号や地図、資料の見方についてミツバチのキャラクターの吹き出しを使って説明している。
- 世界と日本それぞれの「さくいん」を設け、さくいんの引き方について説明するコーナーを設けている。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 問題解決的な学習をするための工夫

- 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きでまとめて掲載している。
《資料の例》主題「世界と日本の資源・エネルギー」
 - ・ 主題図
「世界のエネルギー資源の分布と貿易」、「世界の鉱産資源の分布と貿易」、「一人あたりのエネルギー消費量」、「一人あたりの発電量」、「日本の主な発電所」、「生成可能エネルギーを利用した発電所」
 - ・ グラフ
「鉱産資源の産出国」、「日本の鉱産資源の輸入先」、「世界のエネルギー源の変化」、「世界の発電量の変化」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「世界の生活・文化」として見開き2ページ、「世界と日本の文化」として見開き2ページの特設ページを設けている。
《内容》
【世界の生活・文化】
「世界の住居の材料」、「世界の食文化」、「世界の宗教」
【世界と日本の文化】
「世界の言語」、「さまざまな言語の『私は学生です』」、「世界の祭り」、「日本の文化」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 世界の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
アジア州 16ページ ヨーロッパ州 12ページ アフリカ州 4ページ
北アメリカ州 4ページ 南アメリカ州 3ページ オセアニア州 6ページ
- 日本の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
九州地方 8ページ 中国・四国地方 8ページ 近畿地方 12ページ
中部地方 8ページ 関東地方 14ページ 東北地方 5ページ 北海道地方 9ページ
- 巻末で、5ページにわたり「世界の統計」、「日本の統計」を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 巻頭の地図帳の使い方を説明するページや見開きページごとに二次元コードを付し、コードを読み取って「Bee's eye」の解答例や関連資料等のデジタルコンテンツを活用できるようにしている。

視点⑦ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 歴史・公民の学習に役立つ資料にそれぞれ「歴」・「公」のマーク、SDGs と関連が深い資料に、SDGs マークを付している。
- 「日本の自然環境（自然災害）」では、見開き2ページにわたり、身の回りで起こりうるさまざまな自然災害を取り上げ、ハザードマップや自然災害への備えなどの資料を掲載している。また、「世界の火山・地震」、「東日本大震災の地震と津波」の2カ所の資料を参照できるようページ番号と資料番号を示し、ジャンプマークを付している。

1 知識及び技能の習得

視点① 日本や世界の地域的特色を理解するための工夫

- 段彩図を用いて、陸地の高さや海の深さを表し、日本の各地域の地図には、山の稜線を加えて立体感を表現している。また、世界では、鳥瞰図を用いて、アジア州、アフリカ州、ヨーロッパ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の地形などを立体的に表している。
- 「日本の領土とそのまわりの国々」では、巻末の見開き2ページにわたり、日本の排他的経済水域を示すとともに、日本の東西南北端の各島の写真・地図、「領土・領海・領空の範囲（模式図）」、「おもな国の排他的経済水域の面積」を掲載している。

視点② 地図の活用方法やその手順の示し方

- 「この地図帳の凡例」「地図帳の使い方(1)(2)」では、巻頭の5ページにわたり、地図記号や地図、資料の見方について生徒のキャラクターの吹き出しを使って説明している。
- 世界と日本それぞれの「さくいん」を設け、さくいんの引き方について説明するコーナーを設けている。また、さくいん中の世界遺産、歴史地名・事項、油田などにマークを付して示している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点③ 問題解決的な学習をするための工夫

- 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きでまとめて掲載し、ページ全体に関わる問いを「主題学習」の欄を設けて示している。
《資料の例》主題「世界と日本の鉱産資源」
 - ・ 主題図
「エネルギー資源の分布と移動」、「鉱産資源の分布と移動」、「日本の主な発電所」
 - ・ グラフ「エネルギー供給（消費）量」、「日本の輸入資源（エネルギー資源、鉱産資源）」、「おもな国の発電量の内訳」、「日本の発電の移り変わり」
 - ・ 写真・画像「宇宙から見た夜の日本列島付近」、「日本の主な発電所（火力発電所、原子力発電所、水力発電所、洋上風力発電所、地熱発電所）」

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 「世界の生活・文化(1)(2)」として見開き4ページ、「日本の歴史・生活・文化」として見開き2ページの特設ページを設けている。
《内容》
【世界の生活・文化(1)(2)】「特色ある住居と衣装」、「特色ある料理と食事」、「主食となる作物」「さまざまな言語」、「さまざまな宗教」
【日本の歴史・生活・文化】「日本の世界遺産と史跡」、「時代とともに正確になる日本地図」、「伝統的な町並みの保存」、「地域による方言の違い」、「日本の伝統的な料理」

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 世界の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
アジア州 22ページ アフリカ州 4ページ ヨーロッパ州 12ページ
北アメリカ州 8ページ 南アメリカ州 5ページ オセアニア州 6ページ
- 日本の各地域について地図や資料を掲載しているページ数
九州地方 8ページ 中国・四国地方 10ページ 近畿地方 14ページ
中部地方 12ページ 関東地方 12ページ 東北地方 5ページ 北海道地方 9ページ
- 巻末で、9ページにわたり「自然の統計」、「世界の統計(1)(2)」、「日本の統計(1)(2)」を掲載している。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 裏表紙や各地域の冒頭ページ等に二次元コードを付し、コードを読み取って「地図で発見！」の解答例や関連資料等のデジタルコンテンツを活用できるようにしている。

視点⑦ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

- 歴史・公民の学習に役立つ資料にそれぞれ「歴」・「公」のマーク、SDGs と関連が深い資料にSDGs マークを付している。
- 「防災」、「環境」、「日本との結びつき」のコーナーを設け、それぞれに関連がある資料を掲載している。
- 「日本の自然災害・防災(1)(2)」では、見開き4ページにわたり、身の回りで起こりうるさまざまな自然災害を取り上げ、ハザードマップや自然災害に対する備えなどの資料を掲載している。また、「世界の変動帯と地震」、「広島市付近にある水害の碑の分布」など15カ所の資料を参照できるようにページ番号と資料番号を示し、リンクマークを付している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「種類や縮尺の違いによる多様な利用の仕方や、主題図、その他統計や写真など、たくさんの地理情報を活用し、例えば、気候図を併用して降水量の分布と土地利用の関係を明らかにするなどの事象間の関係を読み取る力や、地図から地域的特色を捉え、地域の課題を見いだし考察したりする力に課題があること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 段彩図を用いて、陸地の高さや海の深さを表しているとともに、世界では、鳥瞰図を用いて立体的に表している。また、日本の各地域の地図では、山の稜線を加えて立体感を表現しており、地図を活用しながら学習する際に、対象となっている地域の地形を立体的に捉えることができるようにしている。
- ・ 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きページでまとめて掲載していることで、複数の資料を関連付けることができるようにしている。また、ページ全体に関わる問いを「主題学習」の欄を設けて示しており、問題解決的な学習を促すようにしている。
- ・ 巻末では、自然の統計に加え、世界の統計、日本の統計を9ページにわたり掲載しており、地図帳を活用して学習する際に、多くの情報を取り出すことができるようにしている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 段彩図を用いて、陸地の高さや海の深さを表しているとともに、世界では、鳥瞰図を用いて立体的に表している。
- ・ 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きページでまとめて掲載していることで、複数の資料を関連付けることができるようにしている。
- ・ 巻末では、自然の統計に加え、世界の統計、日本の統計を5ページにわたり掲載しており、地図帳を活用して学習する際に、多くの情報を取り出すことができるようにしている。

令和7年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔数 学〕 種目〔数 学〕

令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [数 学] 種目 [数 学]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、自然環境に恵まれるとともに、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できるため、数学の学習において、数学的な見方・考え方を働かせる機会を意図的に設定するための題材が身近に多くある地域である。
- 令和5年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の実態としては、数学を活用して日常生活や社会の事象を論理的に考察すること、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。さらに、正答率30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要である。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 問題解決的な学習を実施するための工夫 ③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

3 各教科書の特徴

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「補充の問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの問いの番号を示している。また、少し難しい問題にマークを付している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ちょっと確認」
 - ・ 巻末の「学びのベース」
 - ・ 目次の「前の学習」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「基本問題」
 - ・ 章末の「章の問題A」
 - ・ 基本的な計算の学習の後の「クイックチェック」のコーナー
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがい例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。さらに、「大切にしたい見方・考え方」のコーナーを設けている。
- 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学の目でふり返ろう」を設けている。また、学習内容を数学的な見方・考え方と関連付けて示している。
- 巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの比較」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
- 巻末の「レポートにまとめよう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。
- 学習の区切りに「学びをふり返ろう」や各章末に「ふり返りレポート」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りの「学びをふり返ろう」には、数学的な見方・考え方を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、0章から7章までの8つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。
 - ・ 世羅郡のチューリップ畑
- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や問いの番号を示している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「思い出そう」
 - ・ 巻末の「小学校算数のふり返し」、「〇年の復習」
 - ・ 目次の「これまでに学んだこと」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「たしかめよう」
 - ・ 章末の「〇章をふり返ろう」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「正しいかな？」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭の「数学の世界へようこそ」で数学的な見方・考え方についての特設ページを設けている。
- 巻頭の「数学の世界へようこそ」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「伝えよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年6章「データの比較と箱ひげ図」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 学習の区切りや各章末に「学びのふり返し」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「〇年の復習」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基礎・基本となる問題」にマークを付している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ふりかえり」
 - ・ 巻末の「小学校の計算」、「～年の計算」
 - ・ 目次の「～で学んだこと」
 - ・ 領域の前の「ふりかえり」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「確かめよう」
 - ・ 章末の「〇章のまとめの問題」
 - ・ 基本的な計算の学習の後の「計算力を高めよう」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「正しいかな?」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ『見方・考え方』をまとめよう』を設けている。また、学習内容と数学的な見方・考え方を関連付け、問題解決の流れの図を添えて示している。
- 巻頭の「この教科書を使った数学の学び方」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「説明する力をつけよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの分布」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
 - ・ 度数折れ線
 - ・ 折れ線グラフ
 - ・ 円グラフ
- 巻末の「表現する力を身につけよう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントを示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。
- 学習の区切りに「どんなことがわかったかな」や各章末に「〇章『～』を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、「どんなことがわかったかな」の横に「次の課題へ」の欄を設け、次の学習につながる疑問と関連箇所のページ数を示している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、職業名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。
 - ・ マイスカイホール85
 - ・ 広島市の海拔表示
 - ・ 宮島水族館
 - ・ 因島大橋
 - ・ 厳島神社
 - ・ 北広島町役場
- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「補充問題/実力アップ問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの問いの番号を示している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「もどって確認」
 - ・ 巻末の「学びのマップ」
 - ・ 目次の「ふりかえり」
 - ・ 章の前の「～を学習する前に」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「基本の問題」
 - ・ 章末の「章の問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがい」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「大切にしたい数学的な見方・考え方」を設けている。
- 巻頭の「みんなで数学をはじめよう！」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの分布」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
- 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。
- 章末に「〇章 学習のまとめ」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から8章までの8つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトや色遣い、フォントに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「力をつけよう」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基本的な内容の問題」にマークを付している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ふりかえり」
 - ・ 巻末の「学びをふりかえろう」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 項末の「練習問題」
 - ・ 章末の「章末問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「誤答例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「いろいろな場面で役に立つたいせつな考え方を身につけよう」を設けている。
- 巻頭の「問題を発見し解決して、さらに深める力を身につけよう」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「説明しよう」や「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「箱ひげ図とデータの活用」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 巻末の「レポート例」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 章末に「○章のあしあと」コーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。
 - ・ 瀬戸内しまなみ海道サイクリングロード
- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページを示している。また、「難易度の高い問題」にマークを付している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「ふりかえり」
 - ・ 巻末の「中学〇年のまとめ」
 - ・ 章の前の「ふりかえり」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「確認問題」
 - ・ 各章末の「問題A」
 - ・ 基本的な計算の学習の後の「練習問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、登場する生徒の考えとして示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 巻頭の「学習の進め方」で、数学的な見方・考え方の例を示している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す問題を設けている。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年6章「データの活用」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 巻末に各学年までのまとめ、「学びの自己評価」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材を扱っている。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。

1 知識及び技能の習得

視点① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

- 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や問いの番号を示している。
- 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方
 - ・ 側注の「確かめ」
 - ・ 巻末の「算数の確かめ」
 - ・ 目次の「算数で学んだこと」、「これまで学んだこと」
 - ・ 章の前の「次の章を学ぶ前に」
- 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方
 - ・ 節末の「基本の問題」
 - ・ 章末の「○章の問題」
- 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがいの例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。

2 思考力、判断力、表現力等の育成

視点② 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。
- 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学的な見方・考え方を身につけよう！」を設けている。
- 巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、問題解決の過程について説明している。

視点③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫

- 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合おう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。
- 2学年7章「データの比較」にあるデータをまとめたグラフや図
 - ・ 箱ひげ図
 - ・ ヒストグラム
 - ・ ドットプロット
- 巻末の「数学レポートをかこう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫

- 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。
- 章末や付録の「ふり返りシート」に振り返りのコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りに「次の課題」として、次の学習につながる問いかけを記載している。

4 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。

5 内容の表現・表記

視点⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方

- 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。

視点⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。

視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市生徒の課題である「数学を活用して日常生活や社会の事象を論理的に考察すること、数学的な表現を用いて説明すること、基礎基本の定着のための手立てが必要であること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和7年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究の報告書」を基に審議した。

意見1 学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 目次の「～で学んだこと」で各領域と関連のある既習事項を示している。また、側注の「ふりかえり」および巻末の「～の計算」で関連する既習事項を示している。
さらに、各領域を学習する前に「ふりかえり」のページを設け、その領域の既習事項を振り返っている。それにより、学習につまずいている生徒がこれまでの復習をするときに、どの学年のどの内容の復習を行えばよいか理解し、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながる学習が行いやすくなる。
- ・ 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ『「見方・考え方」をまとめよう』を設けている。また、学習内容と数学的な見方・考え方を関連付け、問題解決の流れの図を添えて示している。それにより、問題解決の過程でどのような数学的な見方・考え方を働かせればよいか分かるようになっていく。
- ・ 学習の区切りに「どんなことがわかったかな」や各章末に「○章『～』を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、「どんなことがわかったかな」の横の「次の課題へ」の欄に次の学習につながる疑問に関連箇所のページ数を添えて示している。それにより、生徒が学習内容を関連付け、見通しを持ちながら学習を進めることができる構成になっている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 目次の「前の学習」で各領域と関連のある既習事項を示している。また、側注の「ちょっと確認」および巻末の「学びのベース」で関連する既習事項を示している。
- ・ 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学の目でふり返ろう」を設けている。また、学習内容を数学的な見方・考え方と関連付けて示している。
- ・ 学習の区切りに「学びをふり返ろう」や各章末に「ふり返りレポート」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りの「学びをふり返ろう」では、学習内容を振り返るとともに、これまでの学習で働かせた数学的な見方・考え方を自分の言葉でまとめることができるようになっている。